ひかしひろしま 細土史研究会ニュース

No.599

2024年7月

6月例会報告

6月例会は、梅雨入りを告げる雨の中、6月22日(土)三ツ城地域センターで行われ、24人が参加した。冒頭、赤木会長は、「いよいよ梅雨の季節。雨に備えて災害に巻き込まれることのないように過ごしましょう。郷土史研究会では、先月今月と3名の新規会員を迎えました。これも創立50周年イベントのために取り組んできたおかげ。引き続き頑張りましょう」と挨拶した。

研究発表は、天野浩一郎氏により「教善寺と 安芸門徒」というテーマで行われた。

現在も西条駅北側にある教善寺は、その由来が『鶴亭日記』にも記されているという。また、広島藩 2 代藩主浅野光晟により、寺の修理、建築を藩の費用で行うことなどの特別待遇が与えられていて、要望なども直接代官とやりとりできる地位が与えられていたことも紹介された。

後半は浄土真宗に関する発表で、安芸国での 浄土真宗の布教の経緯や、東広島でも多くのお 寺が改宗したことが分かる史料などが示された。 〈例会参加者(敬称略)〉三島昇、赤木達男、国永昭二、 進藤真由美、近藤英治、蔵楽知昭、蔵楽恭子、國松宏 史、船越雄治、天野浩一郎、西本嘉住、池本安弘、中 村建治、角谷勉、宍戸元文、木原敏博、藤井達正、吉 井良平、長田悦子、間瀬忍、片山貴志、丸本富美子、 吉田泰義、大森美寿枝(以上24名)

第38回 東広島の史跡・文化財を 見て歩く会を振りかえる 実行委員長 福村 博士

今年は八本松・川上地区の再発見と銘打って 例年通り4月29日(祝)に実施されました。

当日の午前8時にはスタッフが八本松小学校に集合し、駐車場案内や体育館などの会場設営であわただしく準備を致しました。

昨年は小谷小学校で体育館を借用しましたが、

7月例会のご案内

日 時 7月27日(土)13:30~

場 所 市役所北館 市民協働センター

発 表 「ハイドパークの覚書について」

吉岡真喜夫氏

「外国人被爆者」

丸本富美子氏

今年は八本松小学校と川上小学校の体育館を借りることができましたので雨の心配もなく、そこでは来場者の皆さんに、八本松地区の過去の街並み資料や「八本松八十八石仏の会」による珍しいジオラマや写真などを展示して説明することが出来ました。

9時30分には間瀬さんの司会で開会式が始まり、最初に高垣市長さんのご挨拶がありました。市長さんから、今年は市制50周年を迎え4月20日に芸術文化ホール"くらら"で盛大に記念式典がおこなわれたとの紹介がありました。そして我が東広島郷土史研究会に対しては市制と同じく50周年を迎えることについて、東広島市内にある様々な史跡・文化財を研究している東広島郷土史研究会の活動について励ましのコメントがありました。

オープニングは「八本松太鼓」のみなさんにより"屋台囃子""風"の2曲を力強く太鼓演奏して頂きました。(下写真)



続いて赤木会長より市制50周年に合わせて我が東広島郷土史研究会の創立50周年記念事業の取り組みについて、「記念誌編集」の作業と「県史協東広島大会」の説明があり、まずはこの度の第38回「史跡・文化財を見て歩く会」を成功させたいとの強い決意表明がありました。

その後は次の通り来賓のご紹介がありました。 東広島市議会議員 小池恵美子様、上田 秀様、 東広島市八本松小学校 田中校長様、八本松自 治協議会 土久岡会長様、八本松地域センター 大道センター長様、川上住民自治協議会 村上 会長様。

「歩く会」の出発前に本日のスケジュール並びに諸注意事項を福村実行委員長から説明し、近藤英治理事が事故防止の為に入念なストレッ

チ準備運動を実施。

参加者が多数の為に、早く歩く第1班、中間の第2班、ゆっくりの第3班に分け、10時10分頃から予定通り、第1班の福村実行委員長を先頭に約70名が八本松小学校を出発しました。

その頃からお天気が少し気になりながら、八 本松中学校の旧体育館前では、丸本さんから山 陽本線の由来や、瀬野駅~八本松駅の登りが急 なために蒸気機関車を2台連結して運転してい た等の珍しいお話や、八本松中学、県立教育セ ンターの話を聞きました。その後は狭い通学道 路で自動車に注意しながら、第1関所の清水川 神社へ行く途中にある"妙福寺"(東広島市で は唯一の法華宗寺院) へ立ち寄り、境内では大 森さんとボランティアガイドの方から、広島藩 士の大橋一郎左衛門より土地を賜った妙福寺縁 起や伝、後村上天皇の位牌等の詳しい説明があ りました。清水川神社の入り口前では、今田さ んから古い石灯篭や石塔の説明を聞いた後に、 このコースでは汗を流しながら一番急な山道を 登りました。

最後の石段を上った第1関所では、東広島ウエストライオンズクラブの皆さんから手形へご 朱印を押して頂き、参拝し一休みしながら天野さんから八本松開拓団などのお話を聞きました。

神社を下る途中には集会所がありトイレ休憩 し、三嶋さんが西国街道を紹介し、その道を長 崎から江戸へ行った日本で最初のベトナム象の 話をされましたが、聞いた一同はその話は"ホ ント"?興味津々のお話でした。

次の第2関所へは、狭い生活道路を通り旧国道2号線へ出てから山陽本線を横切り、「音戸」 工場前~「デルタ工業」前とくねくねとした 道路を通りまた民家の生活道路へ、交通班や交 通警備会社のお蔭で無事にやっと第2関所の川 上神社へ到着。

第2関所は東広島青年会議所の皆さんが担当 されました。神社に参拝した後、そこでは今田 さんが絵馬についてのお話やボランティアガイ ドさんから珍しい盃状穴のある手水鉢の説明を して頂きました。

段々と雨になる中、昼食会場になっている次の第3関所へ出発、ここも狭くて昔の農家が見られる住宅街を抜け、かつて妙福寺があったと伝えられる墓地前を通り、交差点のある広い道路に出て狭い通学路を通り、やっと川上小学校の体育館へ到着。

体育館の玄関では、西条ロータリークラブの 皆さんに雨具の処理などのお手伝いをして頂き 大いに助かりました。まずは思い思いの場所で 昼食となりました。

しばしの休憩をしながら体育館の展示資料で 天野副実行委員長、蔵楽恭子さんから、大正5年の尋常小学校から現在の場所へ移転された過 去から現在の川上小学校の歴史や、藤ケ迫古墳 などの説明をして頂きました。

第2班が到着した頃を見計らって雨具をつけて第4関所へ出発、もと来た狭い通学路を通り交差点へ、志和方面の歩道を通り左折して、川上地域センター横を見ながら新しい住宅街を抜けて八本松駅方向にある妙徳寺を目指しました。

此のころは雨も一段と激しくなり、片手で持っていた目印の赤色棒は雨で"ぐっしょり"。第4関所の前の保育園隣で蔵楽知昭さんから、今は発掘調査されていて想像することしかできない「土居屋敷」について、時は16世紀頃、大内氏が曽場ケ城を築いていたころ山陽道、大山峠や今坂峠に通じる主要街道を抑える為、防御の為にこの地に県内有数の規模を誇る平城を築いたと言われている貴重なお話が聞けました。

第4関所の浄土真宗"妙徳寺"は東広島21ロータリークラブの皆さんが担当されました。そして大森さんが、このお寺の歴史と、この墓地には槌山城の大内氏と毛利氏が合戦した時の城番の一人であった菅田飯田備中守(すげたいいだびっちゅうのかみ)宣真(のりざね)の墓のお話をされました。(下写真)



次は第5関所である疱瘡神社を目指して小雨の中を出発、米軍川上弾薬庫専用道路(別名:弾丸道路)の歩道をひたすら歩き、やっと第5関所の疱瘡神社(馬頭観音と同じ場所)に着きました。ここは東広島ロータリークラブの皆さんが担当されました。担当の三嶋さんより、この神社の由来と菖蒲の前伝説に出てくる馬を祀る馬頭観音の説明をして頂きました。またこの神社と観音さまは一緒に大正5年にこの地に移転されているそうです。

このころから雨も段々と弱くなり、神社の急な坂道を下り八本松駅方面の第6関所へと向かいました。八本松駅の北口広場では吉田さんが

長尾一里塚や川上弾薬庫、曽場ケ城の遠望を説明され、蔵楽恭子さんが八本松駅の歴史等を説明されました。

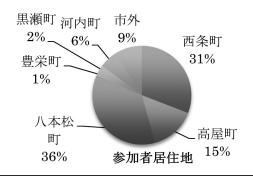
八本松駅の高架橋の上では天野副実行委員長 さんとボランティアガイドの徳永さんも、八本 松駅の移り変わりを今の風景で説明されました。

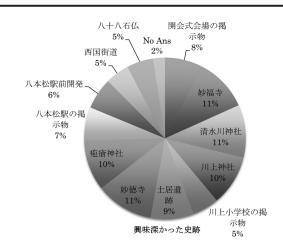
陸橋を降りて一路、最後の第6関所の八本松小学校を目指し"関所門"を通過して到着です。 担当の東広島ライオンズクラブから最後の手形 にご朱印を押して頂き、完歩された皆さんは "雨の中お疲れ様"のかけ声に満足され笑顔が 印象的でした。

最後には赤木会長より、雨の中最後まで無事 に歩かれた事にお礼と感謝の言葉があり、そし てこれから東広島郷土史研究会が50周年記念事 業に全力で取り組む事を話され、今回の史跡・ 文化財を見て歩く会にご協力頂いた多くの後援 会の皆さまにお礼を申し上げ閉会となりました。 私は初めて史跡・文化財を見て歩く会の実行委 員長を努めることになり、何かと私の不手際で 皆さまには大変ご迷惑ご心配をおかけしました。 今回の第38回「史跡・文化財を見て歩く会」が 雨の中、大変多くの参加者があり、無事故で成 功することができましたこと、ご協力頂いた八 本松小学校様、川上小学校様、八本松自治協議 会の土久岡会長様、川上自治協議会の村上会長 様、多くの後接会の皆様、そして郷土史研究会 の会員の皆さまにお礼申しあげます。

東広島の史跡・文化財を見て歩く会 アンケート集計結果







創立50周年特別寄稿 第3弾 「東広島郷土史研究会」の思いで 東 康=

私がこの会に入会したのは1980年、二代宮川 忠孝会長の頃でした。昭和の終わり頃です。キッ カケはお茶社中の友だちに旅行の誘いを受けた ことからです。県外旅行には当時あまり縁のな かった私には絶好のチャンスでした。

[県外臨地研修] は年2回あり、春は五月に 一日で日帰り、秋は十月頃に一泊二日で京都や 九州、山口方面へと広く巡りました。私は友達 との旅行が楽しく、毎年のように参加しました。



平成22年秋の研修旅行 醍醐寺にて

当時の事務局長・栗本哲雄氏は旅行先の教育委員会への連絡、旅館お手配、行き先々の配慮、細々とお世話くださっていました。バスの入口一番前の席で、バスが着く度に足繁く動いてくださった姿が目に浮かびます。

旅行一日目の旅館では夜の親睦会が非常に賑やかで楽しく、最後は堀越先生十八番の「さざんかの宿」をみんなで肩を組んで合唱し、お開きとなりました。しかし、一度だけ今でも忘れることのできない一泊がありました。

それは昭和天皇がご病気で病床に伏しておい での年でした。日本国中天皇陛下のご病気を案 じて殆どの行事も控えめになりました。静かな 重苦しい雰囲気の夜でした。黙々と食事を済ま 世早々に床に就きました。その年も暮れ、年明 け一月七日におかくれになり、昭和は終わりま した。

田坂次彦氏が事務局長を引き継がれました。 田坂氏も長くお世話くださいました。武将茶人・ 上田宗箇の和風堂見学も心に残っています。あ の日は生憎の雨天、しかも風もあり悪天候でし た。が、雨に濡れた露地は趣があり、しっとり とした庭を眺めながらの一服は本当に幸せを感 じました。上田流社中の湯川昌氏のお世話でし た。由緒ある茶道でのお家元宗箇のお点前は素 晴らしく、流れの美しさに酔い痴れるほどでした。

〔巨樹・植物研究会〕では、当日の朝、集合場所コジマヤで行き先の発表があり、スリル満点。二~三台の車に分乗して目的地に向かいます。福富町、黒瀬町、安芸津町など市内の多くの巨樹に出合いました。堀越先生の話はユーモアたっぷりで真面目に聞いていたら、うっかり騙されることが度々で笑いの絶えない半日でした。

巨樹も見上げるだけでなく手で触って抱きしめて木の温かさを感じることなどの大切さを経験しました。堀越先生が百歳を超えられた頃、林田和恵さんに任務を譲られましたが、それからも休むことなく参加され、会を支えて下さいました。林田さんも前日の下見や見学後の記録や写真等よくお世話下さり、ありがたく思っています。

巨樹の会、第百回記念とは出りでは非常にあるとは非常にを がいい は非常に がいに を はま はま した。 (右写真)

〔東広島の史跡・文化財を見て歩く会〕では、



会員の皆が資料収集に早くから取りかかり、幾度も集合し資料づくりなど準備を進めました。 私は伊東茂夫氏に頼まれて、その土地に纏わる 伝説の紙芝居や宇都宮黙霖、神機隊、原爆に関 する絵など、納得のいくまで何枚も描きました。 八本松の長尾一里塚・小谷焼の歴史なども下手 乍ら一生懸命描いて楽しませていただきました。

「歩く会」のスタートが中央公園だった年の 事です。準備万端、開会の時間が迫ったとき、 どこからか侍姿の人が現れました。頭に烏帽子、 陣羽織を着て槍を手に腰に刀を差して舞台に立っ たのは、なんと天野浩一郎会長さんでした。こ のユニークな開会の挨拶は、今でも忘れること ができません。

おわりに

郷土史研究会に入会してから四十年余りもの 長い間、多くの皆様に沢山の事を学ばせて頂き、 感謝です。これから若い方がどしどし入会され 東広島郷土史研究会がますます発展することを 祈念しております。

終わりになりましたが、お亡くなりになった 歴代の会長様、お世話下さった役員の方々、親 しかった会員の方々のご冥福を心からお祈り致 します。

106歳を迎えられた堀越敬實先生

2024年4月23日(火)高屋町にある御薗寮に 堀越先生を訪ねました。東広島郷土史研究会 が創立50周年を迎えるにあたり、かつて会長 をお務めになった堀越先生に一言いただけれ ばという思いがあったからです。

面会室にいらっしゃった堀越先生は、以前と全く変わらず、素敵な笑顔。少し耳が遠くなられたようでしたが、ユーモアを交えながらのお話に、周りのみんながあっという間に引き込まれていきました。

「東広島郷土史研究会が創立50周年を迎えたことへの思いをお聞かせください」という質問には、「郷土史研究会が始まって50年になりますか。特別じゃあないね」と一蹴されてしまいました。堀越先生の基準では、50年は長いとは言えないようです。

ただ、先生にとって「巨樹・植物研究会」は特別なものだったようで、次のように話してくださいました。

「わしがまだ高等小学校の時、受け持ちの 先生が新種の植物を発見して、東京から偉い 先生が見に来られた。ちょうど運よく学校帰 りの道でその偉い先生と一緒になった。それ まで、植物には、「草」と「木」があると思っ ていた。先生は道沿いにある植物の名前を次々 と口にした。一本一本名前があるのは知らな かった。びっくりした。それが面白いと思っ て、植物に惹かれるようになって、植物が好 きになって、植物の研究を始めて、とうとう 植物博士になった。

人にはそれぞれ転機がある。私の場合は、 先生が新種の植物を発見したから、日本一の 植物学者に出会えたことが縁です」

そのようにして学んだ知識を独り占めせず、 植物の面白さをみんなに分けてくださったの が「巨樹・植物研究会」だったのですね。

文責 間瀬 忍

第1回昔の道探訪会

吉田 泰義

2024年5月22日(水)福富町久芳の福富ダム道の駅に9時30分集合。開会式後に福富支所駐車場に車を移動し探訪開始。

「福富支所〜福富駐在所〜昔の役場跡地〜歌灯人の舎〜昔の公民館〜谷河内川橋〜保育所〜 久芳小学校跡〜縄文時代金口古墳〜久芳八幡神社〜小松西第7号古墳〜小松山光蔵寺観音堂」 375線沿い北東や北西を約3km、帰りは375線沿い歩道約2km快晴の中を楽しんだ。参加者14名。

久芳八幡神社

創建は、社伝では天平元年(729)、久芳村郷土史には建久年間(1190~1199)、応永年間(1394~1428)慶長4年(1599)慶長5年(1600)の棟札、慶長4年の棟札には大願主中納言大江輝元の名前、他にも文明17年(1485)の懸仏、江戸時代の36歌仙奉納額など歴史を伝えている。

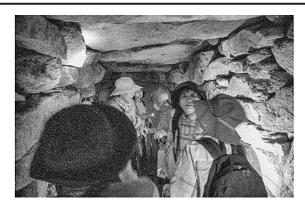
境内で天然記念物の巨樹群、神楽殿、拝殿入口上に飾られている龍の銅蟲(どうちゅう)、神殿など見事であった。

拝殿前で川口裕子氏の篠笛演奏「夏は来ぬ」 卯の花の 匂う垣根に ホトトギス はやも 来鳴きて しのびねもらす 夏は来ぬ (^^♪4 番までみんなで合唱)



小松西第7号古墳

久芳の埋蔵文化財は約70基の古墳と10の山城跡が調査されているが、古墳は開発でほぼ消滅している中で小松西第7号古墳が現存しており見学した。径15m、高さ3mの円墳、横穴式石室、長さ9m。入り口前で古墳博士の福村氏の解説を聞いた後、女7人先に男7人後に交代で羨道から石室に入りランプで照らしながら見学した。



久芳の小松山 光蔵寺観音堂

境内は地域の人たちが守られて清掃が行き届いている。山門を入ると「洗心」と「龍心」の手水鉢、小堂で合掌、延喜元年(901)入野の竹林寺住職日興開基と伝えられ五輪塔が歴史を伝えている。境内右に高さ約4m、横は長方形の不思議な石が立っている。「小松の龍神石」として信仰されており石碑より伝説を紹介する。

昔、石の好きな人がこの石を発見し、出会原のおどりの庭まで持ち去り帰宅した。翌朝村人がつれだって運びに行くとそこには姿なく不思議な石よと後をつけてみると、光蔵寺の庭この位置に建っていたと地域の人々はこの石柱の力におどろき、この石を龍神石と名付け信仰するようになったと。「家内安全 商売繁盛 健康第一 交通安全 幸福招置 本物一番」



第1回昔の道探訪会に参加して 進藤真由美

5月22日の記念すべき第1回昔の道探訪会は、 私の出身地である福富町久芳で開かれました。 この日のコースは、私が幼いころ走り回って 遊んでいたところばかりでした。

福富支所から昔の役場跡に抜ける道は、福富 ダム建設に伴う新道が開通するまで、久芳から 竹仁に向かう主要道として日常的に使われてい た道です。新道に慣れた今ではずいぶん狭く感 じられましたが、歩いてみると駄菓子を買い込んで友だちの家で遊んでいた思い出が蘇りました。

久芳八幡神社は小学校時代の通学路です。毎日裏山を越えて境内を通り抜け、学校へ通っていました。当時の秋まつりは盛大で、参道の両脇に屋台が所狭しと並んでいたものです。あまりに身近な神社なので建物の造りや歴史を意識したことが少なく、説明を聞いて新鮮な気持ちになりました。

私は史跡の中で特に古墳が好きなのですが、中でも一番好きな古墳が、実家から500mほどの位置にある「小松西第7号古墳」です。子どものころは近所の方がたくさん漬物壺を並べておられ、その壺を縫うようにして入り込んで遊んでいました。

夏は涼しく、冬はほんのり温かく。人のお墓に勝手に入って失礼な話かもしれませんが、快適な遊び場でした。古墳だと教えてくれたのは、亡くなった父だったと思います。

重機が使えない時代ですから、多くの人が手作業で建造したのでしょう。こんな田舎に、こんなものを作ってもらえる豪族がいたのかと不思議に思ったものです。

大人になって改めて見ると小さく感じられるかと思いましたが、この日訪れると記憶の中の姿以上に立派な古墳でした。全国的に見れば小さい古墳かもしれませんが、人の背丈ほどもある大きな石材がいくつも使われており、石室は大人も立って歩ける広さがあります。

玄室と羨道の間に、それらを分ける袖石があることにも気づきました。同じものを見ていても、知識をつけることで見えるものが変わってくることに感慨を覚えました。



小松観音堂も子どものころから慣れ親しんだ 場所で、父や近所の方が大切に祀っている姿を 見て育ちました。

この日歩いた道の多くは、現在の生活では通らなかったり、通っても車であっという間に通り抜けてしまったりするところです。懐かしい道をグループの皆さんと話しながら歩いてみると、いつもと違う景色に記憶が刺激されて色々なことを思い出し、本当に楽しく歩けました。

「昔の道」というと古代山陽道や西国街道が 思い浮かびますが、普段通らなくなった「少し 昔の道」にも十分に地域の歴史が眠っています。 グループ活動を通して他の地域の昔の道もたく さん訪れ、いろいろな時代の息吹に触れていき たいと思います。

《新規会員紹介》

片山 貴志 さん (西条町)







Instagram

HP

Facebook

グループ研究会ご案内

第288回 古文書研究会

と き 7月16日(火) 13:30~

ところ 市役所北館 市民協働センター

テキスト 国郡志御用書上帳賀茂郡奥屋村⑥

第186回 石造物研究会

と き 7月23日(火) 9:00~

ところ 市役所北館 市民協働センター

内 容 第3回石造物探訪会資料検討

第184回 四日市町並研究会

と き 7月8日(月) 13:30~

ところ 西条本町歴史広場 小島屋土蔵 「酒都西條」パワーポイント作成

第3回 昔の道探訪会 (旧山城探訪会)

と き 7月17日(水) 9:00~12:00

集 合 白市探訪駐車場

内 容 白市交流センターで座談会

原爆資料保存研究会

と き 7月18日(木) 14:30~

ところ 市役所北館 市民協働センター

7月の図書室開放

と き 7月19日(金) 13:00~15:00

ところ 高屋教育集会所

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第599号

令和6年(2024)7月5日発行 編集・発行 東広島郷土史研究会

会 長 赤木達男 TEL(082)423-7235

E-mail:akatatu@d4.dion.ne.jp

事務局長 國 松 宏 史 TEL090-7979-6234

E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp

会報編集 間瀬 忍 TEL080-5756-2303

E-mail:mase shinobu@yahoo.co.jp